

# かぼちゃ通信

後援会だより

かぼちゃ通信第60号

●久田よしあき後援会事務所

知立市新林町新林1-2 〒472-0017  
TEL 0566-81-0218

夏の気配を感じさせる今日この頃いかがお過ごしでしょうか

訳あり人生はみんな同じ

臆せず、前を向いて行こう。

行く手には雲間。

動くから進む、

不安も消えて行く。



知立市議会議員 久田よしあき

## 前中日ドラゴンズ監督落合博満氏の「采配」を読む

落合氏は2004年にドラゴンズの監督に就任し、8年間に4度のリーグ優勝、2007年にはチームを53年ぶりに日本一に導いた。落合氏は現役時代、日本プロ野球史上唯一、三冠王三度を達成している。よく「名選手は名監督にあらず」ということが言われるが、なぜ落合氏は名監督であったのか、この著書を読むとその理由がとてもよくわかる。

まず落合氏の経歴だが、高校時代入退部を繰り返す、大学時代は先輩の鉄拳制裁に馴染めず、退部する。大学も2年で中退。その後、高校時代の恩師の紹介で東芝府中に就職。5年間の社会人生活を経てプロ入り。3年目から一軍に定着をした。つまり落合氏は、下積みをして頂点に立った選手だったのだ。一般的にプロ野球の監督というと、長島・王に代表されるように、いわゆるエリートでプロ入りし、現役時代実績を残し、そのまま監督になるというケースが多いわけである。このタイプの監督はドラフト1位で入ったような選手をレギュラーに育てるのは得意である。一方でドラフト下位で入団してきたような無名選手を育てるのは得意ではない。無理もない、自分自身が潜在能力に恵まれ、順風満帆な野球人生を過ごしてきたゆえ“で

きない人の気持ち”が理解できないのだ。「プロに入ってきたんだから、そんなことくらいはできるだろう」そういう視点だと、できない選手が「能力がない」「努力をしていない」と見えてしまうのだ。

落合氏の『できる・できない、両方がわかるリーダーになれ』この考え方が、ドラゴンズを強いチームにした最大の要因であろう。



落合氏は監督時代、マスコミに対して選手のケガなどの情報公開を一切しなかった。このことに対して世間では、ファンサービスにかける行為だとの批判もあった。著書の中で、この点についてきちんと説明がなされている。

落合氏は、選手は個人事業主であり『情報管理こそが監督の仕事』という。情報公開をしなかったのは、選手の権利を最大限尊重する行為だったのだ。

落合氏は、選手の体調に関する情報は、個人事業主たる選手にとって企業秘密に匹敵する重要情報だという。表の故障・隠れた故障を問わず、監督がぺらぺらと選手の体調についてメディアに話すことは、戦いに不利であると同時に、個人事業